

ソーゾーシープロフィール



■瀧川鯉八(たきがわ・こいはち)

1981年、鹿児島県鹿屋市出身。2006年、瀧川鯉昇に入門。2010年、二ツ目昇進。2020年、コロナ禍の中、真打昇進。予定していた披露パーティーが見送りとなる。第1回渋谷らくご大賞(2015年)、第3回、4回渋谷らくご大賞(2017、2018年)受賞。花形演芸大賞金賞受賞(2021、2022年)ほか。独自の新作落語で「鯉ハワールド」を生み出し、熱狂的ファンを持つ。映画「土を喰らう十二カ月」にも出演。無類の映画好きでも知られ、「希望のかなた」「枯れ葉」などのアキ・カウリスマキ監督に会いにフィンランドまで行ったことも。落語芸術協会所属。



■春風亭昇太(しゅんぷうてい・しょうしょう)

1984年、千葉県松戸市出身。2007年、春風亭昇太に入門。2011年、二ツ目昇進。2021年、真打昇進。落語芸術協会所属。2016年、第2回渋谷らくご大賞、2020年、渋谷らくご創作大賞受賞。2017年に結成した「ソーゾーシー」の発起人にして、リーダー。新作落語に熱き思いを持つソーゾーシーのムードメーカーだが、実は2022年に脳梗塞を発症し、手術を受ける。幸いにも大きな後遺症なく現在も、熱い高座を居けている。文化放送配信の「はまきんっ」に金曜隔週でレギュラー出演。千葉テレビ「モーニングこんぱす」では水曜メインパーソナリティを務める。Youtubeチャンネル「アバンギャルド昇太」。趣味はマラソン、トレイルラン。



■玉川太福(たまがわ・だいふく)

1979年、新潟市出身。2007年、二代目玉川福太郎に入門、2013年、名披露目。古典と新作の二刀流。日本浪曲協会のほか落語芸術協会にも所属し、落語の寄席にも出演。「天保水滸伝」や「清水次郎長伝」など古典を継承する一方、新作では代名詞とも言える「地べたの二人」シリーズをはじめ、時事ネタや身近雑記など幅広いテーマを浪曲化。2017年からは山田洋次監督、松竹の許諾を得て「男はつらいよ」シリーズの全浪曲化にも挑戦。三遊亭白鳥原作の「任侠流れの豚次伝」全10話の浪曲版を当会で通し公演。第1回渋谷らくご創作大賞(2015年)、文化庁芸術祭大衆芸能部門新人賞(2017年)、彩の国落語大賞特別賞(2023年)など受賞。2025年、新宿末廣亭1月下席で浪曲師として60数年ぶりの主任(トリ)をつとめ、10日間大入満員という歴史的な興行を成し遂げた。



■立川吉笑(たてかわ・きっしょう)

1984年、京都市出身。2010年、立川談笑に入門。わずか1年5カ月の異例のスピードで二ツ目昇進。古典落語の世界観の中で、現代的なコントやギャグ漫画に近い笑いの感覚を表現する『擬古典<ギコテン>』という手法を得意とする。『中央公論』での連載など執筆にも積極的に取り組み、著作に『現在落語論』がある。2021年、渋谷らくご大賞・渋谷らくご創作大賞W受賞。2022年、若手翫家の登竜門、NHK新人落語大賞を満点受賞。2023年、豪華ゲストを毎回迎えての伝説的真打トライアルを経て、2025年6月1日、真打昇進。2025年6月8日には帝国ホテル孔雀の間での盛大な披露パーティーを開催したほか、6/24～7/3、「座・高円寺」にて寄席のセットまで作った披露興行を自ら主催するなど、「カッコイイ真打」の道を驍進中!



■玉川みね子(たまがわ・みねこ)

山形県出身。二代目玉川福太郎と結婚したことを機に、三味線教室へ。1976年に入門。1978年、浅草・木馬亭で初舞台。現在は玉川太福らの相三味線を務める。

SNSで公演予定や
演芸の話題を配信中!

